とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1部50円1カ月150円1カ年前納1,500円

町立病院対策は白紙

陸別町議会

定例の四回の陸別町議会は二一日にひらき、会期を二日間として議会関係諸般報告があつて佐々木建設委員長から所管事項の調査報告があり、これにたいして

高橋誠議員　町道はみなかつたのか

佐々木委員長　町道の視察はないが通るので、パイロット地区以外はわるく農道がわるい、ショベルドーザはタイヤに入れかえるべきである

寺尾議員　勲別橋の架替計画は距離的に疑問があるキャタピラをタイヤにすれば半分も力がなくなる

佐々木委員長　勲別橋は山振法でやり経済効果が必要で吊橋では困る、タイヤは輸送費がかからず舗装されるので効果的である

寺尾議員　大誉地をまわつても温根内をまわつてもかわりがなく、補助は一回だけであとはこない、キャタピラをタイヤにかえて失敗した例がある

佐々木議員　専門家に相談すべきで、橋は産業面、教育面からかけるべきだ

などの質疑があつて、町立国保病院に関する調査特別委員会の報告にうつりました。

まさに緊急事態

西野委員長　九月の定例議会で付託をうけていらい五回の委員会、本町近似五カ町村の視察、町内各団体の代表者、元町長、前議員二十一名の意向聴取など延二十日間にわたつて調査した、直営診療所にした浜益村、委託診療所にした浦臼村、委託診療所にした女満別町、直営診療所にした東も琴村、委託診療所にした浦幌町はいずれも良好な成績だが、ほとんどが無医町村で、陸別町が開業医二名のほか町立病院をもつのは道内随一の好条件と思考する、町内有識者の意向調査で診療所に移転新策して町内の開業医に委託が多く、すでに病院の累積赤字は四千三百万円に本年度の予想額三千万円を加えると七千三百万円に達するにもかかわらず患者の利用率は二〇%以下で、医業収益にたいする人件費の割合は通例五〇%が採算点であるのに九二、三%となつており、院長は三月に、内科医と薬剤師は一月に、看護婦三名と用務員は三月までに、それぞれ退職を申し出ており、特別委員の多数意見は有識者とほぼ同一だが位置は現位置適当が多かつた、このままでは病院の機能を失う緊急事態にあるので、町は応急対策、抜本的具体案を策定すべきである、なお本報告書を町理事者に送付することを希求する

矢鋪議員　理事者に送付することにはなつていない諮問機関ではないのだから使命から逸脱している、町長の診療所構想を肯定することはあり得ない、議会に報告するだけでよい、送付は削除すべきでないか

西野委員長　送付の点は私の見解で、最大の関心事と推測して希望するが、多数意見によりたい

矢鋪議員　委員長の意見は入れないと決定した、職権乱用となる

西野委員長　削ることにやぶさかではない

ここで竹内議長が本会議を休憩して特別委員会で協議した結果

西野委員長　削除するが議長は町長から求めがあれば差支えない

高橋誠議員　特別委員会は町立病院に関するとなつていて診療所にする調査ではない、現在の国保病院を建て直し赤字をなくするのが問題で、これにふれていないのはなぜか、才一番に病院長や事務長の見解を求めるべきなのに最終的にしたのはどういうわけか、視察した五カ町村は大都市の周囲で、陸別町は北見、帯広へ二時間かかる、調査の段階は病院を診療所に直す努力が感じられ一歩足りない

西野委員長　医業が不振で赤字がふえているのは、アンケートでも医師の不適当、施設の老朽化に問題がある、院長や事務長に最終的に意見を求めたが、委員会は理事者側の意向を求めた、運営は町長である、診療所を重点に調査したが、このままの形態ではうまくないので重点調査となつた

高橋誠議員　これで特別委員会は終了したのか

西野委員長　これをもつて終了したと解釈する

宮古議員　意識調査は二十一名だが、何百名もの人にすべきでないか

西野委員長　主な団体の長、代表者、元町長、前議員とした、無差別に多くの人にきくにこしたことはないが、これらの方である方向は判断できた

宮古議員　二十一名はあまり医者にかからない人の意見で、一方的ではないか

鈴木議員　道衛生部の小規模診療所にたいする見解をくわしくききたい

西野委員長　片リンをのせたが、衛生部として病院を建て直すなら小規模町村は診療所をすすめた、赤字のため他の福祉方面にあたえる影響から数ヵ町村を合せ基幹病院、センター病院を推進したいという

池尻議員　親察町村はわが町の実態と違う、診療所ばかりでなく病院のよいところをみる必要があつたのではないか、累積赤字を国や道がどのように措置していたか、各種資料の検討として将来予防、早期発見、健康管理指導の分野にまで拡大、発展すべきで充実した施設でなければならないというが、どう考えるか

西野委員長　視察町村の選択は未解決の町村をみる必要はない、赤字補テンの調査はしていない、将来への展望から町が建てる以上十九床であつても検査その他充実したものを建てればよい

矢鋪議員　多数意見に反対の委員としてーさる議会で西野氏は赤字が多く町内に有能な開業医おり一時休止をといつた、その西野氏が報告をまとめた、医師不在が目の前に現れた、町民の声を二十一名よりきいていない、町立院院を維持していくべきだと求めたが少数意見は抹消された

寺尾議員　おおむね委託経営にかたまつているが、診療所にした場合の数字をつかまねばならない、どうすれば三千万円の赤字が一千万円になり五百万円になるかを出していない、診療所にすれば検査機能が失われる、老人医療を加味した計画はどうか

西野委員長　赤字解消のため診療効果を低下させられない、俸給よりもフルに活動している現実はつかまえた、直診の場合の条件はいろいろあり仮定できなかつた、検査の設備はもつべきである

鹿野議員　診療所をつくり現在の開業医になつたとしてどういう効果があるかこないとすれば廃止となるのではないか、やめた方がよいという結論ではないか

西野委員長　いろいろのことを予想するが、廃止は考えていない、このままでは赤字は来年一億円になる

鹿野議員　つくつて開業医がくる利点はなにか

西野委員長　町内の医師にあたつてみてはいないが過当競争がさけられる、これで三カ月にわたる調査活動を解除して頂きたい

などの論議があつて特別委員会の報告がおわり解散となりました。

問題はこれから

○…委員会の多数意見は、「診療所にして委託経営として町内開業医を優先」だつたというだけで、議会がこれを結論として議決したわけでもなく、調査の結果を報告しただけのこと。

○…あとは理事者の判断でどう執行するのかということになりますが、このあとの一般質問で寺尾議員がこんごの構想を尋ねたのにたいして杉田町長は『腹案はあるが医師など微妙な問題があるので近く改めて発表する』として、問題を新年にもちこし。

○…いまのところ病院問題については理事者も議会も白紙といつた形ですが、全く〝重症患者〟となつたこの問題にどのようにメスを入れるか新年最大の課題。

大臣製造株式会社

才二次田中内閣にはゼヒ残りたいといつていた本名武代議士は、再任はならず五カ月だけの大臣のイス。

× ×

暮の国会で首班指名をうけるや三時間そこそこのスピード組閣で登場した大臣諸公もこれまた七月までの命

× ×

日本の総理大臣は、なんのことはない大臣製造株式会社の社長で、これでは立派な政治が実現する筈もなし

あけましておめでとうございます　一九七三年
本年もよろしくお願い申しあげます
有限会社 須藤農機製作所
取締役社長 須藤助直
足寄町 T 二〇六五
下足寄工場 T 二八一四

T-S表示許可工場
道東コンクリート株式会社
代表取締役 日景健治
足寄町 T 三一一一

田谷クレーン工業株式会社
取締役社長 大通健三
取締役工場長 山本繁
足寄町 T 二一五三 二一五四 二四四〇

足寄農機具工業株式会社
取締役社長 安久津義人
足寄町 T 二一八六 二一八七

吉田整骨院
吉田幸蔵
旧大友院院跡
足寄町 T 二二八八

陸栄建設工業有限会社
取締役社長 寺尾政一
陸別町 T 五二 二六三

霊きゅう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
(に)自動車 新津はなや
足寄町西三区 T 二六二六

不動産についての御相談は
調査 売買 あつせん 管理 分譲
代行 登記 損害保険 代理まで
同和、興和火災保険代理店
北海道免許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目 T二三四五

大自然のなかの人工美
ーいで湯のふるさとー
観光と保養の 芽登温泉
足寄町芽登 T二八五五

庭石は道東随一の当会社へご用命下さい
有限会社 大浦建設
造園 土木 造林 造材 請負
足寄町芽登 T 一一
連絡所 釧路スバル上原社長宅 T 四一一七六六四
帯広市 原田発宅 T 四一四六三五
芽室町関山 大野政夫宅 T 二五二一
池田町 中野直次宅 T 二一八二四六

新しい機械と技術で！
整備 板金 塗装
ムトウ自動車工業
板金・塗装 武藤悦啓
二級整備士 武藤衛賢
足寄町農業共済組合前 T 二五七八

株式会社メーゾン観光チェーン
おでんスナック
シャンブル(小さな部屋)
松山絵里子
足寄町南一区 T 二四三九